

教育評価部会

1) ①研究テーマ

「生きる力」をはぐくむ評価のあり方

②研究の内容: 主題設定の理由・昨年度の研究について

・変化の激しい実社会を主体的に力強く生きていく力を培うという観点から、近年子ども達に求められる力が、『生きる力』(確かな学力、豊かな人間性、健康・体力)であり、新学習指導要領においても、「児童に生きる力をはぐくむことをめざし、創意工夫した特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」と考えが示されている。そこで各学校における児童・生徒や地域の実態に応じた教育課程の編成・実施とそれに伴う指導法の工夫が必要になってくる。

また、「児童の良い点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること」と評価についての考えが示されている。このことから、「生きる力」特に「確かな学力」の定着を考える時、わたしたち教師の指導を振り返り改善することと、適切な評価と支援により児童の学ぶ意欲を高めることは、きわめて重要な内容であると考えられる。日常行っている評価を見直し、児童の学び・変容を丁寧に見取り、具体的・積極的な評価を行うことで次の学習活動への意欲を高め、確かな学力の定着をいっそう図っていきたいと考え、本テーマを設定した。

昨年度は1枚ポートフォリオ評価法に焦点を当てた2年目として、作成・活用の仕方をさらに研究しながら、道徳の授業を通じて検証を行った。その結果、学習前・学習後において、児童の道徳的価値の高まりや心の変化を見取ることができた。また、児童自身が読んで自分の変化を知ることができることから、児童・教師にとって、意欲を高め心の成長を認められる有効な手だてであるという成果が得られた。そこで3年目にあたる今年は、昨年度までの国語、道徳からさらに教科・領域を広げて研究を進めていきたいと考える。

③ 成果と課題

1. 成果として

- ・授業実践では、授業の流れや教材について部会で話し合ったり、実際に授業を参観させていただき、たくさんのことを学ぶことができた。
- ・今年は、昨年度と別の教科のポートフォリオについて研究したので、いろいろな教科での有効性について学ぶことができよかった。
- ・評価の手だてとして、1枚ポートフォリオの形式や使い方についての研究が深まった。

- ・ 1枚ポートフォリオの活用に視点を当てて3年目となり、教科の幅を広げさらに研究の積み上げができた。
- ・ 1枚ポートフォリオを適切に作成し活用した時、児童の学習意欲の高まりや学力の定着につながることを実感できた。
- ・ 校内研究の授業でも1枚ポートフォリオを取り入れ実践でき、部会の研究を生かすことが出来た。1枚ポートフォリオがどの教科・領域でも工夫次第で活用できることが分かった。
- ・ 『生きる力』を育むための評価の仕方として、1枚ポートフォリオ評価に部会で取り組んで3年目になるが、児童のよい点（学習の理解度）や進歩の状況を見る上でも、教師の指導過程や指導方法を振り返るという点においても、一定の効果が得られる評価方法であることが実証された。

2. 課題として

- ・ 県教研での他郡の提案（ノート指導、学習感想、パフォーマンス評価・・・）などから学んだことも全体に環流し学習していくことも大切だと思ったがその時間が持てない。
- ・ 1枚ポートフォリオの研究に取り組んで3年が経過したので継続も含めて検討したい。
- ・ 外部講師を招聘して、最先端の研究にふれたり、現研究をさらに深めたりするためにも、その機会を年間の研究の中に計画したい。
- ・ 授業において、1枚ポートフォリオを使うことは出来るようになってきているが、何を見取り、何のために用いるのか明確化することが大切である。
- ・ 継続研究され研究が深まっている。特に1枚ポートフォリオについて教科に合わせた形式や使い方を考えていきたい。
- ・ ポートフォリオをどのように指導に役立てていくか研究していきたい。

3. 理論研究に基づいた授業実践について

- ・ 授業研究はそれぞれが工夫され大変参考となった。授業者に感謝したい。
- ・ 過去2年間の実践を振り返り、1枚ポートフォリオの本来の姿や実践の中で、課題となったことを年度当初、共通理解を図ることが出来た。
- ・ ノートやワークシートとの違い（目的や活用の仕方）を理解した上でノートやワークシートと併用しながらの活用が出来た。
- ・ 評価の方法としてポートフォリオに取り組みましたが、部会で研究したことでポートフォリオが、子どもを評価するだけでなく教師自身が自分の授業実践を振り返る手だてになることも確認出来たと思います。
- ・ 一昨年度は国語、昨年度は道徳というように研究したものを、年度始めの部会で紹介し合うことで、過去の成果もお互いに学び合い自分の実践に生かすことが出来ました。
- ・ 1枚ポートフォリオを用いることによって学習内容を捉え直し自分の力でまとめる力が児童につく。
- ・ 教師が目指したことと児童がポートフォリオに記述したことを比較することで、それぞれの授業の改善に生かすことが出来る。
- ・ 授業前と授業後の自分の変容についても4年生ぐらいになるときちんと比較して記述できるようになった。

（部長 小林 光三）